

2 男女共同参画社会

～男性と女性が家庭、職場、社会などで互いに協力しながら、同等に参画できるまち

<基本計画の目標>

男女が社会のあらゆる分野に同等に参画でき、かつ責任を分かち合う社会の実現をめざします。
 女性に対する相談・自立支援の充実をめざします。
 男女がともに自立し、支え合う地域社会の実現をめざします。
 市民、事業者、行政が連携しながら、男女の多様な生き方の実現をめざします。
 生涯を通じて男女共同参画社会の理解と学習を進めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	50.1 %	57.3 %	53.9 %	58.6 %	52 %	↓

<C 目標達成に向けた23年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【経営企画部】	自己評価
鎌倉市男女共同参画推進条例に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた様々な事業に取り組むとともに、各課から報告された施策の進捗状況について、「鎌倉市人権・男女共同参画推進連絡会」で評価し、課題の検討などをするとともに、「鎌倉市男女共同参画推進委員会」に報告しました。	◎
市民ネットワーク「アンサンブル21」と協働で、男女共同参画フォーラムやセミナーの開催、情報誌「パスポート」、女性史第4集の発行を行いました。また、パワーハラスメントについて考える研修を職員を対象に行いました。	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【経営企画部】

<p>「鎌倉市人権・男女共同参画推進連絡会」で評価し、課題の検討などをしたとあるが、どのような課題が指摘されたのかを明示すべきである。</p>		<p>市職員で構成される「鎌倉市人権・男女共同参画推進連絡会」の会議については、公開していませんが、検討事項等については、必要に応じてかまくら人権施策推進委員会や鎌倉市男女共同参画推進委員会等に報告することで、市としての課題を明示しています。</p>
<p>過渡期の施策分野と考えるが、男女の平等性は結果としての平等ではなく、入り口の平等であるべきではないか。</p>		<p>男女共同参画基本法では、さまざまな分野において男女が平等に意思決定権を持つべく、機会の格差改善のため、必要な範囲内で男女いずれか一方への積極的な機会提供を規定しています。本市の施策においても審議会等における女性委員の割合について目標値を定める等、必要に応じて、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)等の導入を図っています。</p>
<p>市民経済部報告では、鎌倉市人権・男女共同参画推進連絡会での検討や、フォーラムやセミナーの開催等の実施は評価されているが、どのような内容について検討したか、行事開催に関しどのような点を評価できるのかといった具体的な内容が挙げられて無く、どの事業がどのような効果を生み出したのかといった具体的な評価を今後、是非行っていただきたい。</p>		<p>講演会の開催や情報誌の発行は、ひとりでも多くの市民に男女共同参画社会の実現についての必要性を知ってもらうためのきっかけ作りです。フォーラムの入場者数約150名を始め、他の講演においても適正な集客ができ、地道に周知の範囲を広げています。 市職員で構成される鎌倉市人権・男女共同参画推進連絡会で検討された内容については、外部委員からなる男女共同参画推進委員会で審議され、その内容を公表することで施策の効果をお知らせしていますが、今後は、施策の評価方法について、さらに改善を図ります。</p>
<p>DV(家庭内暴力)相談が36件(身体的暴力)と報告されている。言葉の暴力が含まれていないのに、高い水準にあるので、減少に向けた取り組みを継続してほしい。</p>		<p>平成22年度は、市の女性相談制度についての周知に力を入れたため、相談制度を知り得た人や繰り返し相談する人が増えたことも相談件数の増加の一因であると考えられ、相談件数の多寡でDVの状況を判断することは難しいです。 平成23年度から相談時間を拡大するなど相談体制を充実させ、より相談を受けやすくしています。DV相談の件数は、身体的暴力も精神的暴力も含むものであり、早い段階で、気軽に相談できることが予防にもつながるため、今後も相談制度の周知に努めます。</p>

<E 23年度未達成事業の課題・問題点など>

【経営企画部】

23年度のフォーラムやセミナーでは十分な集客は得ることができませんでした。今後は、市民の関心や興味の把握、実施時期・時間帯の工夫などが必要と考えます。また、十分な周知期間を置き、PR活動にあたり集客力を高める必要があります。なお、社会情勢が変化していく中で、男女共同参画事業として実施するのにふさわしい事業の精査も欠かせません。

※未達成の理由<支障となった理由>

市民の関心や興味を的確に把握できなかったこと、効果的なPRが不足したことによるものです。

<F 今後の展開(取組方針)>

【経営企画部】

社会情勢、経済情勢が急激に変化する中で、困難や生きづらさを抱える人たちの状況も多様化、複雑化しています。誰もが自立し、支え合う社会の実現を目指す条例の理念を周知するため、啓発の方法をさらに工夫し、一人でも多くの人の気づきを促すよう努めます。

市民向け、職員向けの研修をさらに充実させるとともに、市民ネットワーク「アンサンブル21」との協働に努め、市民同士の情報交換等による意識の浸透を深めます。

<G 実績指標:事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	H22年度 目標値	H27年度 目標値
審議会等への女性委員の登用率(+)	市に設置された各種審議会の委員総数に占める女性委員の割合	21.4 %	24.3 %	27.8 %	31.6 %	31.7 %	30 %	40 %
固定的性別役割分担意識(-)	固定的性別役割分担意識を肯定する市民の割合	49.8 %	47.2 %	47.2 %	48.8 %	42.2 %	43 %	33 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	6,212千円	5,008千円	5,194千円	6,623千円				
	(国・県)	0千円	0千円	0千円	0千円				
	(負担金等)	50千円	202千円	55千円	665千円				
	(一般財源)	6,162千円	4,806千円	5,139千円	5,958千円				
	人員配置数	2.1人	2.1人	2.1人	2.1人				
	人件費 (B)	19,387千円	18,589千円	18,024千円	18,076千円				
	総事業費(A+B)	25,599千円	23,597千円	23,218千円	24,699千円				
	対前年比		92.2%	98.4%	106.4%				

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・各種委員会の女性比率が着実に増加している印象がある。DV関係の相談時間を拡大するなど相談体制を充実させ、より相談を受けやすくしている。
- ・女性相談制度が周知されてきたことは良いと思う。
- ・審議会等への女性委員の登用率が経年的に増加し、平成22年度目標値を達成した。
- ・積極的に様々な事業に取り組んで努力している。



課題・提言

- ・様々な事業も必要であろうが、男女共同で鎌倉のまちづくりをするなど大きな目的も欲しい。
- ・「固定的性別役割分担意識」が低下している一方で、市民満足度は6.6ポイントと大きく低下している。(自己評価は全て◎となっている。)女性の社会参画が進み、市民の意識は今後も変化していくと考えられる。市は「審議会等への女性委員の登用率」で平成27年度目標値40%をめざし、率先して機会均等を進めるとともに、日本社会の現状と将来を展望し、市民、事業者、行政が連携しながら、男女の特性を生かした多様な社会参画をめざすべきである。
- ・自立は経済面だけでなく精神面も必要である。男女の性差を認識した上で、家庭、地域、社会の中でお互いに尊敬し合い、自分の役割を果たすことが大切である。
- ・DVについては、男性被害者も多数存在していると思われる。(特に精神的暴力。)
- ・女性のみならず、男性に対する対応にも注力して頂きたい。
- ・情報誌「パスポート」、女性史第4集の発行などは市民に十分周知されていない。女性史事業がどのような市民から評価を受けているかなどは不明である。
- ・男女の機会均等制度は広がりつつあるが、人の意識はそれと同様ではない。男女の自立と共生は理想の社会だが、行政の施策として行う事業は対象が広範囲で難しいかと思われる。
- ・フォーラムやセミナーが有意義であるように企画するべく、実施は民間主導へと移行させていくべきである。
- ・近年の社会情勢を踏まえれば、女性の雇用機会の創出が大きな課題であり、産業振興あるいは勤労者福祉分野で対応していくべきである。
- ・「平和・人権」分野の人権相談と同様、問題に対応していくことが重要である。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成23年度の取組は、普通であった。